

まい 埋やちよ

千葉県八千代市
埋蔵文化財通信
No.1 1997. 10.01
(平成 9年)

創刊にあたって-「埋」(まい)のころ-

数百年、数千年はたまた数万年前の人びとの作った道具が、あるいは生活した痕跡が土の中に残されているということに、ある種の感動を覚えませんか。過去に生きていた人びと、その多くは名もない人びとですが、彼らの残した様々なモノを丹念に調べることによって、彼らの生きざまや知恵を知ることができます。そんな土中に埋もれているモノとは、土器・石器などの遺物、竪穴住居跡などの遺構、そしてこれらを包含した遺跡、つまり考古資料のことです。

これらに光を当て、埋もれたモノを通じて郷土の歴史・文化や人の心に迫りたい。このような気持ちをこめてこの情報紙に「埋(まい)やちよ」という名前をつけました。“My Yachiyo”の意味もこめています。



青森県三内丸山(さんないまるやま)遺跡や島根県加茂岩倉(かもいわくら)遺跡など、考古学上の大発見のニュースが、テレビや新聞でしばしば取り上げら

れています。八千代市内にはそれほどの派手さはないものの、旧石器時代から江戸時代に至る237箇所にあつた多くの遺跡があります。現在までに既に大量の遺構・遺物が掘り出されていますが、まだより多くのものが埋もれていることでしょう。



遺跡は一度掘ってしまえば、元の状態は失われてしまいます。私たち埋蔵文化財行政の担当者は、遺跡をなるべくそのままにしておくように、保護に努めています。しかし土木工事などの破壊の危機が訪れた時は、事前に発掘調査を行って遺跡の記録をとるようにしています。

情報紙「埋やちよ」には、市内から発掘された遺物や遺構などの紹介や、これらに関する話題を掲載します。なるべくわかりやすく、市民の皆様親しんでいただける内容をめざし、「埋」のころに迫っていきたいと思いますので、よろしくお願いたします。

遺跡紹介

平成8年11月から12月にかけて、市内米本(よなもと)地区の逆水(さかさみず)に所在する逆水遺跡の確認調査(遺構の有無や規模を調べる調査)を行いました。10mごとに試掘坑(しくつこう)を掘っていくと試掘坑のあちらこちらで幅1m程度の溝状の黒いしみが現れました。そのしみを追いかけるように試掘坑を拡張していくと、やがて黒い溝状のしみは四角形に並んで現れ、弥生土器片が出土し、その時これは弥生時代の方形周溝墓(ほうけいしゅうこうぼ)とわかりました。



方形周溝墓

方形周溝墓とは弥生時代から古墳時代はじめにかけて造られたお墓のことで、中央の墓穴の周りに溝を四角形(方形)に配置していることから、その名が付けられました。近畿地方で発生し、九州から東北まで広く分布し、中でも東日本では多く発見されています。

溝はそれぞれが独立していたり、つながっていたりと様々で、1基単独で造られるものもあれば、複数が並んでいるも

逆水遺跡

のもあります。おもにその地域の有力者が埋葬されたと考えられています。また方形周溝墓は、古墳時代につくられた墓である古墳の出現期の様子を知る手がかりとしても注目されています。市内で他に方形周溝墓が見つかった例としては、保品(ほしな)地区の栗谷(くりや)遺跡、米本地区の阿蘇(あそ)中学校東側遺跡などがあります。

逆水遺跡の方形周溝墓は、溝が独立していて複数が並ぶ形態のものです。確認調査の後に行った本調査の時に出土した土器から、弥生時代中期(宮ノ台期)のお墓であることがわかりました。今回の調査では6基見つかりましたが、調査区の外にも広がっているようです。弥生時代の逆水には大きな墓地があったのでしよう。またこの墓を造った人びとの集落がどこにあるのかなど興味が湧いてきます。



遺物出土のようす

6基のうち2基のみを本調査し、それ以外は保存され今も逆水の地に眠っています。(宮澤 久史)

遺物紹介

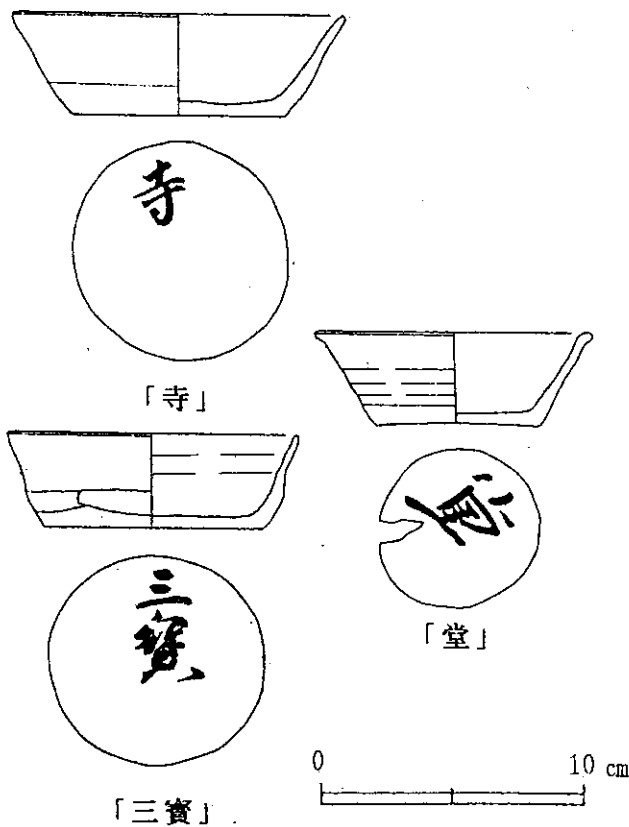
旧印旛沼の低地に近い市内神野(かの)の台地上に、向境(むかいさかい)・境堀(さかいほり)遺跡があります。現在、遺跡の周囲では大規模な住宅地の開発が進められていますが、近年これにともなう発掘調査でこの地域の昔の様子が少しずつ明らかになってきました。それによると、この周辺は約1200年前の昔にも大きなムラが営まれていたようです。平成4年から始まった向境・境堀遺跡の発掘調査では200軒以上の住居跡や建物跡が見つっています。そのほとんどが奈良時代から平安時代にかけてのもので、

向境・境堀遺跡で注目されることは、墨で文字が書かれた土器がたくさん出土していることです。このような土器を墨書土器(ぼくしょどき)といいます。墨書土器に書かれた文字は、一文字ないし数文字がほとんどです。しかしまれに文章や人の顔が書かれているものもあります。文字の内容は、使用場所や用途、身分、人名、地名、干支、方位、吉祥句、数量、所有、呪語、習書などさまざまで、記号化されていたり意味不明のもの、判読できないものも多くあります。

八千代市は千葉県内でも屈指の墨書土器出土地域で、その中でも向境・境堀遺跡での出土量は目立っています。多い文字は「田」「富」「人」「万」「千」などですが、特に注目したいのは、「寺」「堂」「三寶(宝)」と書かれた墨書土器があることです。三寶(宝)とは仏教で最も敬うべき仏・法・僧のことと考えられます。向境・境堀遺跡では「三寶」

墨書土器

の墨書土器が4点出土していますが、全国的に見て出土例が無く、きわめて貴重なものと言えます。しかし向境・境堀遺跡では国分寺のような大規模な寺院跡は見つかっていません。おそらくは仏堂だけの小規模な寺がムラのなかに営まれていたのでしょう。当時の中央(近畿地方)から遠く離れたこの地のムラに、仏教が広まっていた様子を想像することができます。



墨書土器の実測図

謎の多い墨書土器ですが、文字という付加価値は重要です。文字のもつ意味やその分布などを調べることによって、当時の人びとの暮らしぶりの再現に近づけるものと思われます。(武藤 健一)

発掘現場を取材して

私は、わいわいTVの市政ロータリーを担当している者です。本年5月後半にその市政ロータリーの撮影で、保品の上谷遺跡を訪れました。本格的な取材は今回が初めてでした。発掘現場を数日に渡ってじっくりと見せていただきました。

驚いたことは、作業の緻密さ。わずか数cmの土器片の1点についてまで、全て出土状況を記録し、保存しているとは思っていませんでした。遺跡を記録上で再現できるように、測定して作図するのは測量作業そのもの。しかも、その精密

な作業をこなしているのがおばちゃん達(失礼)。聞けば、平均して数年は発掘に携わり、調査員より経験の長いベテランもいるとか。遺跡発掘というと、華々しい成果のみが私達の目に映ります。でも、そのかげには地道で膨大な作業があったんですね。

上谷遺跡の発掘は、まだしばらく続くそうです。今後の調査で八千代の歴史に新しい光を当てる発見があることを期待しています。

(八千代市広報課 森田 健一)

情報発信 遺跡見学会のご案内

「発掘を体験! 遺跡見学会」

発掘を体験して、“古代の遺跡”を発見してください。

日時 平成9年10月5日(日)

10時~3時30分

中止時は10月12日(日)に延期

場所 保品 東京成徳大学前

上谷遺跡調査現場内

○体験調査 小学校5年生以上 1回20人

11時~と1時30分~の2回

○交通

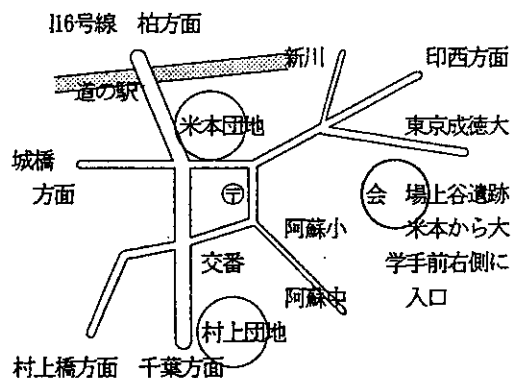
送迎は大和田図書館発

9:30・1時の2便運行

会場には駐車場があります

○当日連絡先 8時から9時

調査現場事務所 88-7392



編集後記

ようやく情報紙を作ることができました。まだ拙い内容ではありますが、市民の皆様にご愛がいただければ幸いです。ご意見などございましたら、どうぞお寄せください。

埋(まい)やちよ

—千葉県八千代市埋蔵文化財通信—

No.1 平成9年10月1日発行

編集・発行 八千代市教育委員会 生涯学習部

社会教育課 文化財係

八千代市大和田新田312-5

☎276 ☎0474(83)1151 (大代表)